

# 提案する五つの授業モデル

授業の質を高める学校体制の在り方に関する研究

算数・数学における習熟度別少人数学習による教育効果について

群馬県総合教育センター  
指導方法の改善に関する調査研究チーム

## I 授業モデル 1 (小学校3年)

### 習熟度別少人数学習における「担任教師とマイタウンティーチャーとの共通理解を促進する指導体制の工夫」と「児童の適切なコース選択のための支援」についての提案 (課題1、課題2の解決)

#### 1 提案理由

本年度に実施した「指導方法の改善に関する調査研究に伴う調査」の結果から、習熟度別少人数学習は、県内の78%の公立小学校で実施していることが分かった。さらに、この学習形態を行っている教師の98%は、ほかの学習形態よりも児童の学力を伸ばしていると感じていることが分かった。

本県では、学力差の広がりやすい算数科の指導において、特配教員を配置してチーム・ティーチングや習熟度別少人数学習など手厚い指導体制を行ってきた。しかし、特配教員が年々削減されていることに伴い、習熟度別少人数学習をマイタウンティーチャーやボランティアティーチャーなどと実施する学校が増加しており、指導方法や児童の学習状況の把握に関する共通理解やそのための時間の確保が課題となっている。

また、県内において、習熟度別少人数学習を第3学年から始める学校が多く、その中でほとんどの学校が児童にコース選択を行わせている。3年生の児童の意識調査では、「自分の選んだコースに満足している児童は70%」、「基礎コースが適していると自己診断している児童の中で、算数を楽しんでいる割合は87%、苦手と感じている割合は46%」、「発展コースが適していると自己判断している児童の中で、算数を楽しんでいる割合は90%、苦手と感じている割合は、46%」など、特にコース選択に課題があることが分かった。また、教師が児童の学習するコースを決めている学校も数校あった。

このような理由から、習熟度別少人数学習における「担任教師とマイタウンティーチャーとの共通理解を促進する指導体制の工夫」及び「児童がコース選択をより適切に行えるための支援」についての授業モデルを提案する。

#### 2 指導づくりの工夫点

##### (1) 担任教師とマイタウンティーチャーの共通理解を促進する指導体制の工夫

##### ○ 単元における導入段階でのTTによる一斉学習

単元の導入段階では、担任教師とマイタウンティーチャーによるクラス単位のチーム・ティ

ーチングを行い、単元の学習内容の概要を知らせたり、単元を通じた共通の指導方法（ノートを活用、問題解決学習の仕方など）を確認し合ったりする。このことにより、児童が習熟度別のコース学習の流れを把握できるとともに、教師間において、児童のコース変更に対応するための共通理解を図ることができるものとする。

##### ○ 単元における追究段階でのTTによる習熟度別少人数学習

単元における追究段階では、2クラスを2コースに分ける習熟度別少人数学習（「発展コース」は担任教師A、「基礎コース」は担任教師Bとマイタウンティーチャーのチーム・ティーチング）を行う。このことにより、教師間において、指導方法や評価方法、児童理解などについての共通理解を深められるものとする。

##### ○ 単元におけるまとめの段階での習熟度別少人数学習

単元のまとめの段階では、2クラスを3コース（「発展コース」・「標準コース」・「基礎コース」）に分ける習熟度別少人数学習を行う。「発展コース」と「基礎コース」を担当教師A、Bが、「標準コース」をマイタウンティーチャーがそれぞれ担当する。このことにより、コース内の児童の人数が少なくなり、より個に応じたきめ細かな指導を行うことができるようになるものとする。

#### (2) 児童の適切なコース選択のための工夫

##### ○ コース変更の機会を複数回設ける

コース変更の機会を小単元において2回ずつ（新しい学習内容に入る前と習熟を図る時間の前）設け、コース変更を行う児童のため、小単元ごとに各コースの学習進度や学習の仕方をそろえるようにする。このことにより、児童の適切なコース選択が可能になり、学習意欲や授業に対する満足度を高めることができるものとする。

##### ○ コース選択の目安を示す

児童のコース選択においては、学習に対する理解度だけでなく、学習の進度に対する適性、

次時以降の学習の見通しなども判断材料として示すようにする。特に、コース選択の初期の段階では、戸迷う児童が多いため、判断に活用する各項目を点数化し、その合計点を判断の目安

として示す。このことにより、児童が自分に適したコースを選択できるようになるものと考え

### 3 授業実践

#### (1) 実践校

対 象	太田市立鳥之郷小学校 第3学年 習熟度別少人数学習 学年2クラス（1組25人、2組25人）を2コース（基礎コース・発展コース）、3コース（基礎コース・標準コース・発展コース）に分割
期 間	平成18年11月13日～平成18年12月7日 13時間
単元名	かけ算のしかたを考えよう「かけ算の筆算(1)」
提案者	長期研修員 青木 京子

#### (2) 単元の目標及び評価規準

##### ア 目標

筆算形式による2、3位数に1位数をかける乗法計算の仕方について理解し、適切に用いることができるようにする。

##### イ 評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 表現・処理	数量や図形についての 知識・理解
既習の計算を基にして、乗法の計算の仕方を考えたり、活用したりするよさに気付き、進んで用いようとする。	2、3位数×1位数の計算の仕方や筆算の仕方を、数の構成や十進位取り記数法を基に乘法九九に帰着させて考えている。	2、3位数×1位数の計算の筆算が正確にでき、乗法の結合法則を計算に用いることができる。	2、3位数×1位数の筆算の仕方や乗法の結合法則を理解している。

#### (3) 単元の指導と評価の計画(全13時間 習熟度別少人数学習全コース)

担任教師とマイタウン  
ティーチャーとの指導  
体制

コース選択におけ  
支援

マイタウンティーチャーと担任教師  
の授業前後の打合せの内容

時 間	コース	主 要 な 学 習 活 動	○評価規準(評価方法)
	○ねらい	基礎 発展	◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
(レディネステストの実施)		2年生の学習内容「かけ算九九」、3年生の学習内容「0のあるかけ算」、「乗法の交換法則」	単元計画と評価規準の検討、授業の流れ、レディネステストの結果、特に指導を要する児童などの確認
打合せ(放課後 約1時間)			
1	○日常生活での買い物場面の想像しながら、文章問題を作ろうとしている。	<p><b>【指導体制：TTによる一斉学習 クラス単位】</b></p> <p>児童が単元の学習内容の概要を把握した上でコース選択をしたり、コース変更をしても戸惑わずに学習ができるようにノート の使い方や問題解決の仕方などを学んだりするためにTTによる一斉学習を設定する。</p> <p>(担任教師A、B+マイタウンティーチャー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物場面の絵を見て、文章問題を作る。</li> <li>・作成した問題を演算ごとに仲間分けをする。</li> </ul>	<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>○既習した演算を想起しながら、買い物場面での文章問題を作ろうとしている。(ノート、発言)</p> <p>◎異なった演算になるような文章問題を複数作ろうとしている。</p> <p>☆乗法になる問題のパターンを提示し、絵を見て当てはまる数字を入れていくよう助言する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の学習は、乗法の計算であることを知る。</li> <li>・<math>20 \times 4</math>の計算の仕方を考える。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">本時の指導方法と児童の様子、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>
打合せ（休み時間）		
2	<p>○何十、何百×1位数の計算の仕方を考えようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>70 \times 9</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>・<math>300 \times 5</math>の計算の仕方を考える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〔コース選択1〕</p> <p>①レディネステスト</p> <p>②本時の理解度（問題例<math>60 \times 5</math>、<math>20 \times 8</math>、<math>30 \times 7</math>、<math>600 \times 8</math>、<math>400 \times 4</math> など）</p> <p>③本時の学習内容の達成度</p> <p>④学習のペースや内容についての自分の適性</p> <p>⑤次時からの学習内容についての見通し</p> <p>*①～⑤を点数化し目安として7・8点が発展コース、6点以下が基礎コースとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①②は、それぞれ8割できて2点、それ以下は1点</li> <li>・③理解できた2点、理解できなかった1点</li> <li>・④じっくり解く1点 難しい問題をどんどん解く1点</li> <li>・⑤できそう1点、 難しそう1点</li> </ul> <p>・④⑤については、児童の主観で判断され導入の段階では、正しい判断ができないため1点ずつにし、点数差は付けない。</p> <p style="text-align: center;">〔児童意識調査1〕</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○何十、何百×1位数の計算の仕方を既習事項を基にして考えようとしている。（ノート、発言）</p> <p>◎何十、何百×1位数の計算の仕方を何通りかの方法で考えようとしている。</p> <p>☆模擬貨幣を渡すことで10や100を基にして考えればよいことに気付くようにする。</p> <p style="text-align: center;">本時の児童の様子、各コースに入る児童の様子、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>
打合せ（休み時間）		
3	<p>○2位数×1位数の計算の仕方を考える。</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】</p> <p>2コースのうち、1コースを担当教師とマイタウンティーチャーとのTTで行い、指導方法や児童理解の共有化を図る。個人差が大きく多くの支援を要する基礎コースをTTにより指導することが適しているが、目安として基礎コースの児童が発展コースの児童の3分の1以下の場合には、発展コースをTTとする方がよいと思われる。</p> <p style="text-align: center;">（担任教師A+マイタウンティーチャー）（担任教師B）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の計算の仕方を考える。</li> <li>・2位数×1位数（一の位の数と部分積が2けた）の計算の仕方を考える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">主問題 <math>12 \times 4</math>、<math>23 \times 3</math>      主問題 <math>28 \times 3</math></p> <p style="text-align: center;">〔児童意識調査2〕</p> <p style="text-align: center;">本時の指導方法と児童の样子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○2位数×1位数の計算の仕方を、既習の1位数×1位数や何十×1位数を基に考えている。（ノート、発言）</p> <p>◎2位数×1位数の計算の仕方を被乗数の構成から1位数×1位数（乗法九九）や何十×1位数の計算の仕方に帰着できることに気付き、それを基に手際よく計算する方法を自力で考えている。</p> <p>☆模擬貨幣（10円玉と1円玉）を使って、計算方法を考えるよう助言する。</p>
打合せ（休み時間）		
4	<p>○2位数×1位数の筆算の仕方を考える。</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】</p> <p style="text-align: center;">（担任教師A+マイタウンティーチャー）（担任教師B）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考える。</li> <li>・2位数×1位数（一の位の数と部分積が2けた）の筆算の仕方を考える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">主問題 <math>23 \times 3</math>      主問題 <math>28 \times 3</math></p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○2位数×1位数の計算の仕方を基に筆算形式の書き方としくみを考えている。（ノート、発言）</p> <p>◎筆算形式での計算の仕方のよさに気付き、部分積と結び付けながら、分かりやすく説明している。</p>

本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認

☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで筆算方法を考えられるように支援する。

打合せ (休み時間)

5 ○2位数×1位数の筆算の仕方を理解する。

**【指導体制:2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】**  
**(担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)**

・2位数×1位数(一の位の数と部分積が2けた)の筆算の仕方を理解する。  
 主問題 28×3

・2位数×1位数(十の位の数と部分積が2けた及びみな2けた)の筆算の仕方を理解する。  
 主問題 82×3、68×3

**【知識・理解】**

○2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。(ノート、発言)

◎筆算形式での計算を部分積と結び付けながら書き方としくみを理解している。

☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるように支援する。

本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認

打合せ (休み時間)

6 ○2位数×1位数の筆算の仕方を理解する。

**【指導体制:2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】**  
**(担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)**

・2位数×1位数(十の位の数と部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算の仕方を理解する。  
 主問題 82×3、68×3

・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解する。  
 主問題 29×4、75×4

〔コース選択2〕

①2位数×1位数の筆算の理解度  
 (問題例 16×4、28×6、65×8、80×3、25×4など)

②今までの学習内容についての達成度

③学習のペースや内容についての自分の適性

〔児童意識調査3〕

\*①～③を点数化し、目安として6点は発展コース、4・5点は標準コース、3点は基礎コースとする。

・①は、8割できて3点、6・7割は2点、5割以下は1点

・②よくわかった2点、だいたいわかった2点 あまりわからなかった1点

・③じっくり解く1点 難しい問題をどんどん解く1点 児童の主観で判断されるため1点ずつにする。

各コースに移動する児童の実態や指導方法、見取りの方法や視点などの確認(特に発展コースから標準コースへ移動する児童の実態や指導については、綿密に行う)

**【知識・理解】**

○2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。(ノート、発言)

◎筆算形式での計算を部分積と結び付けながら説明している。

☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるようにする。

打合せ (放課後 約30分)

7 ○2位数×1位数の筆算が確実にできる。

基礎                      標準                      発展

**【指導体制:コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】**

本時は小単元の最後の時間であり、学習内容の習熟を図るために設定したものである。3コースに分け、標準コースをマイタウンティーチャーが担当する。マイタウンティーチャーは、今まで担任教師と一緒に指導に当たってきたので、それを基にして指導を行うことができる。また、発展コースと基礎コースの児童の人数がなくなり担任教師が個々の児童の実態に応じた指導ができる。

・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりがある)の筆算がで

・□□ □に0から×□ 9までの数 □□□ 字を入れる 問題を通して、2位

・□□ □に0から×□ 9までの数 □□□ 字を入れる 問題を通して、2位

**【表現・処理】**

○2位数×1位数の筆算が確実にできる。(プリント)

◎2位数×1位数の筆算が早く正確にできる。

☆筆算のルールやかけ算九九をゆっくり確認しながら、筆算を正しく計算できるように支援する。

きるようになる。	数×1位数の様々な場合の筆算ができるようになる。	数×1位数の様々な場合の筆算ができるようになる。
[コース選択3]		*①～④を点数化し、目安として6・7点は発展コース、4・5点は基礎コースとする。
①2位数×1位数の筆算の理解度 (問題例 16×8、78×9、90×3、85×8、42×5など)		・①は、6割できて2点、それ以下は1点
②今までの学習内容についての理解度		・②説明できる2点、自信がない1点
		・③じっくり解く1点、難しい問題をどんどん解く2点
(一部抜粋 詳細は資料編参照)		

\* 表中の児童意識調査は、検証のための資料として学習過程に位置付け、児童の変容を見取るものである。その方法として、群馬県総合教育センターのWebページ「生徒の授業における意識の変容」のアンケートを用いる。

#### (4) 結果と考察

##### ア 担任教師とマイタウンティーチャーの共通理解を促進する指導体制の工夫

##### ○ 単元における導入段階や追究段階でのTTによる学習について

単元の導入段階（1・2時間目）では、クラス単位でチーム・ティーチングによる一斉学習、また、追究段階（3～6時間目、8時間目～10時間目）では、2クラスを2コースに分ける習熟度別少人数学習を行い、「発展コース」は担任教師、「基礎コース」は担任教師とマイタウンティーチャーがチーム・ティーチングで一緒に指導に当たった。マイタウンティーチャーからは、「チーム・ティーチングで担任教師の指導の様子を具体的に把握したことで指導方法が分かり、単元の最初から一人で指導を行うより、自信をもって児童の指導に当たることができた」という感想が聞かれた。

マイタウンティーチャーが配置された場合、打合せ時間の確保が難しいという理由から、習熟度別少人数学習に取り組むことをちゅうちょする担任教師が多い。しかし、このような指導体制をとれば、指導方法や児童の実態を口頭で説明するより、一緒に授業を行うことで具体的に確実に伝え合うことができ、打合せ時間が短時間で済むという利点が生じた。さらに、担任教師とマイタウンティーチャーが授業後に意見を交換し合うことにより、お互いに指導方法や児童理解を深め合うこともできた。

##### ○ 単元におけるまとめの段階での習熟度別少人数学習について

単元のまとめの段階（7時間目、12・13時間

目）においては、2クラスを3コースに分ける習熟度別少人数学習を行い、担任教師とマイタウンティーチャーがそれぞれ1コースずつ担当する学習指導を行った。「基礎コース」と「発展コース」をそれぞれ担任教師が、「標準コース」をマイタウンティーチャーが担当した。担当したコースについて、マイタウンティーチャーは、「標準コースは、自分が指導したことがなかった児童も入ってくるが、担任教師から児童の学習状況をしっかり聞いておけば、基礎コースや発展コースより学習面や生徒指導面などからも指導しやすかった」と話していた。

また、児童の学習に対する意識の変化を調べるために意識調査を行った結果は、次のようであった。質問の「非常にあてはまるを5点、ややあてはまるを4点、どちらともいえないを3点、ややあてはまらないを2点、あてはまらないを1点」として回答得点を平均値化した。「標準コース」を選択し、マイタウンティーチャーの指導を受けた児童と学年全体の児童との学習に対する意識を比較したものが、図1と次のページ図2である。

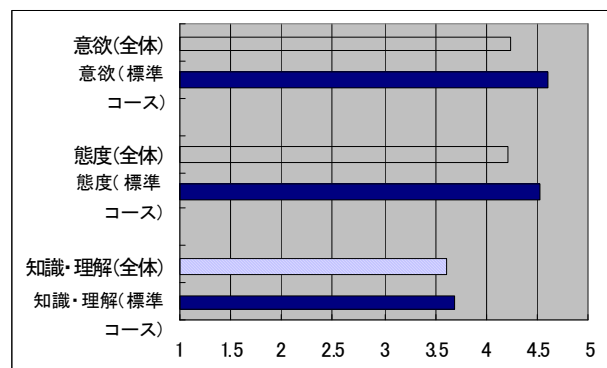


図1 7時間目の授業後の児童の意識

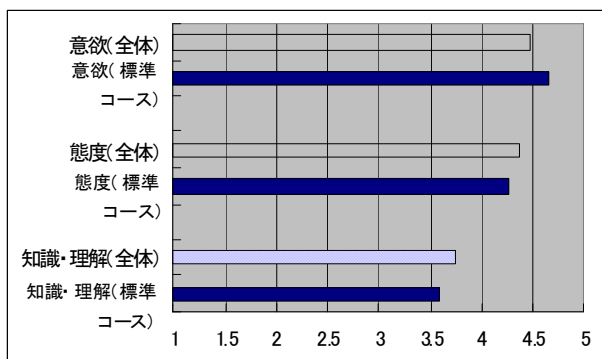


図2 13時間目の授業後の児童の意識

この意識調査において、マイタウンティーチャーが担当した「標準コース」を選択した児童と学年全体の児童の意識の傾向は、ほぼ同じような傾向である。特に意欲面においては、学年全体の児童の意識よりも高いことも分かる。このように担任教師とマイタウンティーチャーとの連携による学習展開を工夫していけば、効果的な習熟度別少人数学習を行っていきけるものと考えられる。さらに、児童からは、「基礎コース・発展コースによる2コースの習熟度別少人数学習より、標準コースを取り入れた3コースの方が1コース内の人数が減るため、学習しやすい」や「3コースの方が、自分によりあった学習ができるのでよかった」といった意見が聞かれた。

このようなことから、担任教師とマイタウンティーチャーのチーム・ティーチングをした後、マイタウンティーチャーが「標準コース」を担当したことは、教える側のマイタウンティーチャー及び学習をする側の児童の両者において効果的であった。

### イ 児童の適切なコース選択のための支援

#### ○ コース変更の機会を複数回設けたことについて

図3は、一単元内で、4回コース選択の機会を与え、その前後の児童の学習意欲の変容を表した結果である。この結果から、コース選択を行った直後の授業（3時間目、7時間目、8時間目、13時間目）に、児童の学習意欲は高まることが分かった。

また、コース選択の機会を増やしたことについて90%の児童は、「よかった」と答えている。その理由として、児童から図4のようなことがあげられた。このことより、コース選択の機会を与えることは、児童の意欲を持続させるためには必要だと考える。

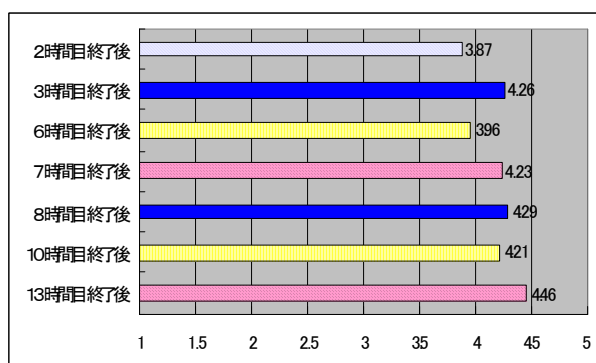


図3 児童の学習意欲の変容

自分の力に合わせてコースが変えられた	9人
いろいろな友達や先生と勉強できた	8人
いろいろなコースで学習できた	7人
算数が楽しくなった	4人

図4 コース選択を増やしてよかった理由

#### ○ コース選択の目安を具体的に示したことについて

コース選択の際、レディネステスト・評価テストなどの結果だけではなく、学習に対する理解度やコースの適性、次時以降の学習の見通しなど多面的に自分を見つめ判断できるようなアンケートを実施した。（次ページ図6参照）

その結果、88%の児童は、コース選択をしやすかったと答えている。また、その理由として、図5のようなことが児童からあげられた。

自分のこと（能力も含めて）がよく分かった	7人
楽しい	7人
コース判断の仕方が分かった	6人
自分に合ったコースが選べる	4人

図5 コース選択しやすかった理由

このことから、多面的に自分を見つめ直すような機会を与えることは、児童が適切なコース選択を行えるような力を育てていく上で大切なことであると考える。

さらに、アンケートの各項目を点数化し、その合計点を判断の目安にコース選択をしたことについて84%の児童はよかったと答えている。その理由として、次ページ図7のようなことが児童からあげられた。

① 今日の問題	点	0 5 10	
② 2けた×1けたの筆算のやり方は正しく説明できますか。	できる	自しんがない	
③ どちらの方法で勉強する方が自分に合っていると思いますか。	じっくりとく	むずかしい問題をとく	
④ これからおこなう勉強についての話を聞いて、どう思いましたか。	むずかしそう	かんたんにできそう	
⑤ どちらのコースがいいですか。	じっくりコース ぐんぐんコース		

(3回目コース選択のアンケートの点数化について)

① 6割以上できて2点、それ以下は1点

② 説明できる2点、自信がない1点

③ じっくり解く1点、難しい問題をどんどん解く2点 (授業が進み、自分の適する学習のペースや内容が判断できようになってきたと思われるため、点数差をつける。)

④ できそう1点、難しそう1点、児童の主観で判断される内容であるため1点ずつにする。)

\* ①～④を合計し、目安として6・7点は発展コース、4・5点は基礎コースとする。

図6 3回目(7時間目終了後)のコース選択アンケート例

〈点数をつけてコース選択をしてよかった理由〉	
自分に合ったコースに行けた	11人
自分で決めると迷ってしまう	9人
自分の力が分かった	4人

図7 点数化してコース選択したことについて

このように、児童は、自分に合ったコースを自分の力で選べたということに喜びや満足感を感じている。習熟度別少人数学習の初期の段階において、児童に適切なコース選択を行わせるために、点数化という客観的な指針を与えることは効果的であると考えられる。

また、このことは、図8のように単元終了後の児童意識調査において、自分の希望のコースを選択できたと答えた児童が94%いたことから分かる。

そして、このような手だてを児童の実態に応じた加減しながら繰り返し行うことで、自分の力で適切なコースを選択する能力を培うことができるであろう。

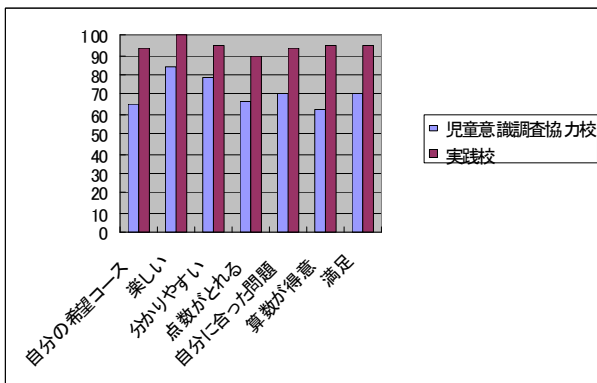


図8 単元終了後の児童意識調査と県下意識調査との比較

### ア 成果

- 単元の導入段階や追究段階では、担任教師とマイタウンティーチャーがチーム・ティーチングで一緒に指導に当たることで、指導技術を向上させたり、児童理解を深めたりするための打合せ時間の効率化を図ることができた。
- 単元のまとめの段階では、マイタウンティーチャーが一つのコースを担当することで、1コース内の人数が減り、より児童の実態に応じたコースを設定することができ、児童の学習意欲の高まりや学習内容の理解の深まりにつながった。また、担任教師とマイタウンティーチャーが同じ方法で児童に指導できるので、児童がコースを変更しても戸惑わずに学習に取り組むことができた。
- 小單元ごとにコースを変更する機会を与えることで、児童の学習意欲を持続でき、児童の適性や能力に応じた指導を行うことができた。
- 学習内容の理解度や次時以降の学習の見通しコースの適性など多面的に自己判断してコース選択をさせたことで、児童は適切なコースの選び方が分かるようになった。また、コースを自己選択することが、児童の授業の満足感につながった。

### イ 今後の課題

- 児童一人一人が自分に適したコースを選択できる力を育てるために、児童の実態に応じた手だてをさらに工夫していきたい。

〈参考文献〉

- ・工藤 文三 編集 『習熟度別指導の基礎・基本』 教育開発研究所(2003)
- ・新算数教育研究会 編集『新しい算数研究』 東洋館出版(2004)

### (5) まとめ



